

故郷の風

群馬県 小野塚いい子（本城町出身）

私が生まれたのは、豪雪地帯の松之山町。就学前に松之山を離れ、既に五十年も経っているのに、何故か近年呼び寄せられるように、頻繁に足を運んでいる。家屋敷は無く、両親も数年前に他界し、松之山との接点が無くなってしまったかと思っただけ、私に組みこまれたDNAがしっかりと繋いでくれている。

松之山町の地域情報発信は、誰が仕掛け人なのか知らないが素晴らしいものがある。グリーンリースの制度もその一つで、私は少しでも故郷を近くに感じたいと思い、個人会員となつてしまった。子供や孫達、友人までも巻き込んだ、田植え、畦なき、稲刈りと、稲作作業への参加は楽しい。過疎が進んでいるという状況の中、市町村合併の話も聞かされて来る。だからこそ今、故郷は元気であつて欲しいと、エールを送り協力

もしたいと思つてしまふ。

もう一つの故郷。私の高田は、中学校の多感な時代を過ごした忘れたくも忘られない心の故郷。本城町に住んでいたのも、通学路の景色はお堀の向こうに見える南葉山と重なる妙高山。妙高山を見るとドキドキすることもあり、柴田長俊画伯の妙高山にぞっこんである。

Jネットの会員になつたことで、私の高田も復活した。あの時代の一つひとつのあり様がしっかりと思い出される。

大好きな地。今があるのは、故郷の風が後押しをしてくれたから。東京生まれの子供や孫達にも私の故郷のすばらしさを伝えたい。DNAは組み込まれていく。いつか、彼らが松之山や高田を語ってくれる日が来るだろう。私と同じように、故郷の風のやさしさを感じ取つてくれることだろう。



初冠雪した妙高山